

第6学年 社会科 指導案

2025年 2月18日
第6学年〇組 38名

豊かに生きる力の育成 ～自分を知り「なりたい自分」に近づくキャリア教育の実践～

1 単元名 「新しい日本、平和な日本へ」

2 単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子などに着目して、地図や年表などの資料で調べ、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことや、我が国が国際社会において果たしてきた役割を考え、表現することを通して、日本国憲法の制定やオリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、歴史の学習を未来に生かそうとする態度を養う。

3 本単元の評価規準とキャリア教育を通して育みたい力（評価規準マトリクス）

高学年の基礎的汎用的能力（夢4）		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人や社会と関わる力  【人間関係形成・社会形成能力】	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場に立って考え、思いやりをもって行動する力 ・相手と関わりながらより良いものを創り上げようとする力 	①調べたことを年表や文などにまとめ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解している。		
自分をみつめる力  【自己理解・自己管理能力】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所短所を理解し、自分らしさを発揮する力 ・自分と異なる意見も理解しようとし、積極的に交流する力 			
課題をやりぬく力  【課題対応能力】	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、自分が今、何ができるかを考え、実行する力 ・情報や情報手段を主体的に選択し、活用する力 	②世の中の様子などについて、地図や年表などの資料で調べ、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを理解している。		①日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
次につなげる力  【キャリアプランニング能力】	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶこと働くことの意義を理解する力 ・将来の夢について考え、実現に向けて設計、行動、改善する力 		①日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを関連付けたり総合したりして、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことや、我が国が国際社会において果たしてきた役割について考えたり、学習してきたことを基に歴史を学ぶ意味について考えたりして、適切に表現している。	②学習したことを基に、我が国の課題やそのよりよい解決方法について考えようとしている。また、歴史の学習を未来に生かそうとしている。

※キャリアと関連が密接なものは**ゴシック体・太字**

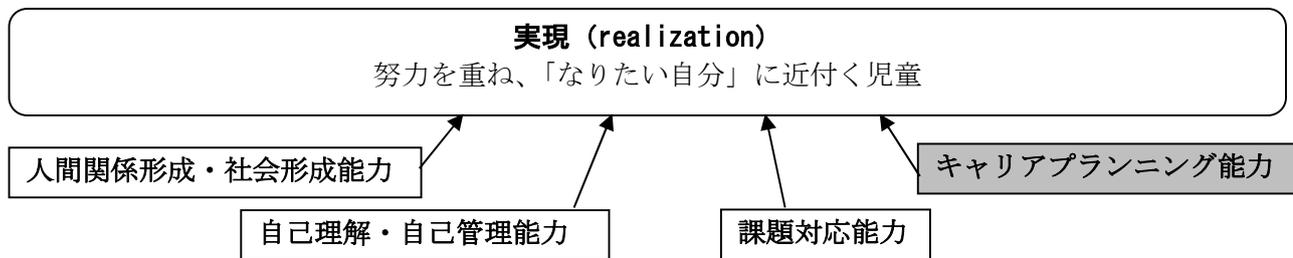
4 部会提案

(1) 児童の実態と単元観

本単元「1 2. 新しい日本、平和な日本へ」は、小単元「1 終戦直後の人々の暮らし」「2 民主主義による国を目指して」「3 再び世界の中へ」「4 高度経済成長期の中の東京オリンピック・パラリンピック」「5 変化の中の日本」「6 これからの日本を考えよう」で構成される。児童は、本単元を通して戦後の日本の歩みについて、「日本国憲法の制定をはじめとした戦後改革によって平和で民主的な国家として出発したこと」「国際社会への復帰や東京オリンピック・パラリンピック開催などをきっかけに産業が発展し、国民生活が向上したこと」「国際社会において重要な役割を果たしてきたこと」などについて学ぶ。また、発展してきた一方、解決が目指されている国内外の課題が数多くあることについても理解していく。研究授業本時は「1 2. 新しい日本、平和な日本へ」のまとめにあたる。単元を通して学んできたことを生かして、本時の課題に対して、これから日本がどのような国づくりをしていけばよいか、自分との関わりの中で考える力を養う。

キャリア教育の視点では、「キャリアプランニング能力」を中心に捉えている。これまでの歴史を学習する児童の様子を見てみると、学習を進めていく中で今と昔を比較したり、時代ごとの移り変わりや人々の暮らしについて調べたりすることに関心が高まっている。単元を終える頃には、学習してきたことをもとに現在の自分たちの生活と過去の出来事との関わりを考えたり、過去の出来事をもとに現在及び将来の発展を考えたりし、歴史を学ぶ意義を考えるとともに、さらに未来に向けて自分にできることを考える力を伸ばしたい。

(2) 高学年の目指す児童像と本単元で重点となる基礎的・汎用的能力



(3) 本単元で目指す児童像を実現するための手だてと関連する夢4

<p>【手だて1】：日本の課題を自分事として身近に感じさせるために。</p> <p>○ 身近な大人に課題を聞く。</p> <p>現在の日本が抱える課題を一番身近な保護者等に聞くことで、自分にも身近な課題だと感じることができるようにする。</p>	<p>【夢4】</p> 
<p>【手だて2】：自分とのかかわりの中で考えることができるようにするために</p> <p>○ 日本が抱える課題を選択して話し合う。</p> <p>日本が抱える課題は様々あるため、話し合いがしやすいように日本の課題を5つに絞り、その課題について身近な大人にインタビューし、その課題の中から自分が考えたい内容を選ばせ、できるだけ同じ課題を選択した児童同士でグループ編成するようにする。</p> <p>○ 日常生活との関連付けをする。</p> <p>政治や日本国憲法、選挙の働き、歴史等、今までに学習したことに関連付け、日常生活の様々な面でニュース等の情報について意識できるように声掛けを続けている。「今」の社会の様子を知ることで、自分にかかわる課題として捉えることができるようにする。</p>	<p>【夢4】</p>  

5 指導計画

		学習内容	主な学習活動	◆指導上の留意点	【評価規準】 基礎的・汎用的能力
学習問題をつかむ	1	敗戦直後の資料から、気付いたことや疑問を出し合い、学習問題をつくる。	○敗戦直後の資料から気付いたことを話し合う。 ○新宿の3枚の写真を比べて気付いたことを話し合い、学習問題をつくる。	◆「まなび方コーナー」で、複数の写真から読み取るポイントを確認する。 ◆年表に書かれているできごとをもとに、日本はどのような国になってきたのかを考えさせる。	【思・判・表①】 【主①】 
調べる	2	日本が、日本国憲法の制定をはじめとする戦後改革を行い、平和で民主的な国家として出発したことについて理解する。	○戦後改革や日本国憲法について調べる。 ○戦後改革について調べたことを年表にまとめ、「一言コメント」を書き込む。	◆「一言コメント」には、それぞれの取り組み（できごと）の説明を書くようにさせる。 ◆年表と「一言コメント」をもとに、なぜ短い間にたくさんの改革が行われたのかを考えさせる。	【知・技①】 
	3	日本の国際社会への復帰の過程や、産業の復興と生活の向上について理解する。	○第二次世界大戦後の世界の動きを調べる。 ○「サンフランシスコ平和条約」や「国際連合への加盟」「産業の復興」を中心に、日本の復興への道のりを年表にまとめ、背景を話し合う。	◆教科書の巻末年表や写真、地図などを活用して、日本の独立までの概要を捉えさせる。 ◆電化製品の普及率のグラフを読み取らせ、産業の復興や生活の向上と関連させて考えさせる。	【知・技①】 
	4	東京オリンピック・パラリンピックの開催や、公害などの環境問題の発生について理解する。	○東京オリンピック・パラリンピックの開催とそれに関連するできごとを調べる。 ○東京オリンピック・パラリンピック開催前後の国民生活の変化について調べる。	◆東京オリンピック・パラリンピックの開催が国民にとってどのような意味をもっていたのかを考えさせる。 ◆どのような場所で公害が発生したのかについて、5年生の学習を想起させて考えさせる。	【知・技②】 

	5	世界と日本の課題とそれに対する取り組みについて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ○冷戦後の世界の課題を調べる。 ○高度経済成長後の日本の課題を調べる。 ○課題に対する取り組みを調べ、自分たちにできることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆さまざまな資料を用いることで、課題に気付かせるとともに、それに対する様々な取り組みがなされていることを捉えさせる。 ◆世界の課題を調べることで、「政治・国際編」の「世界の未来と日本の役割」の学習につなげる。 	<p>【知・技②】 【主①】</p> 
	6 (本時)	学習してきたことをもとに、日本が抱える課題をどのように解決したらよいかについて、自分との関わりの中で考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○世界に広がる日本の文化や技術を調べる。 ○現在の日本が抱える課題や果たすべき役割について調べ、考えたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本のよさと課題の両面から、これからの日本の在り方を考えさせる。 ◆児童の生活経験や関心の傾向などを考慮して、話し合う話題を設定するようにする。 	<p>【主②】</p>  
まとめる	7	調べたことを年表にまとめ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解し、適切に表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の果たすべき役割について発表する。 ○年表を使って、現在の社会に重要な影響を与えたできごとを一つ選び、その影響を文章にした上で、友達と話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆今まで学習してきたことを振り返る。 ◆<u>選んだ出来事</u>が現在にどのような影響を与えているのかを考えることで、学習問題に迫ることができるようにする。 	<p>【知・技②】 【思・判・表①】</p>  
いかす	8	学習したことをもとに、歴史を学ぶ意味について考え、歴史の学習を未来に生かそうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ○カードを使って、歴史の学習を振り返る。 ○学んできた歴史について、分かったことや未来に生かせると思うことを、自分の視点を一つ決めて考え、話し合う。 ○歴史を学んで分かったことや考えたことについて意見文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆カードを見て、社会の様子がどのように変わってきたのかを考え、時代の変化を捉えさせる。 ◆話し合いを通して、歴史を学ぶ意味に目が向くようにする。 	<p>【思・判・表①】 【主②】</p> 

6 本時の学習（7時間扱いの6時間目）

- (1) 本時の目標（その教科の目標）
- (2) 我が国が歩んできた歴史と改善点を整理し、これからどのような国を目指していけばよいか、自分との関わりの中で考えようとする。
- (3) キャリア教育の重点
 - ◎現在と過去の出来事との関わりを考えたり、過去の出来事をもとに現在及び将来の発展を考えたりすることで、学ぶこと働くことの意義を理解する力を育む。【キャリアプランニング能力】

(4) 展開

段階	学習活動	教材, 教具, 学習形態	指導・支援 (○) 評価 (●)
導入 5分	1 本時のめあてを知り、学習の見通しをもつ。 T: 日本が世界に誇れるものはどのようなものだろう。 C: ノーベル賞をとる人がいる。 C: アニメは世界でも有名。 C: スポーツで活躍する人がいる。 C: 安全に過ごせる。	・スライド資料	○児童の発言の後、さらにスライドを活用し、学習の見通しをもつことができるようにする。
これからの日本は、どのような国を目指していけばよいのだろう。			
展開 35分	2 インタビューしたことを参考にして、これから日本がどのような国づくりをしていけばよいか話し合い、ホワイトボードにまとめる。(5分) 3 日本が抱えている課題の中の、自分たちが選択した課題について調べる。(20分) 4 次回の発表に向けて、自分たちの考えをまとめる。	・グループでの交流 ・ホワイトボード、ペン ・グループでの作業 ・クロムブック	○現状と取り組みを調べるように指導する。 ○最終的に <u>どのような国を目指していくとよいかグループの考えをまとめる。</u> ●学習したことを基に、日本が抱える課題やそのよりよい解決方法について、自分との関わりの中で考え、ようとしている。【主②】
まとめ 5分	5 次時の学習内容を確認する。		○他の国とうまく関わることと同時に、 <u>自分の国に誇りを持ち、課題を解決していくことが大切であることを伝える。</u>

※波線はキャリア教育の視点

7 板書計画

これからの日本を考えよう

これからの日本は、どのような国を目指していけばよいのだろう。

(例)

平和

少子高齢化

環境

防災

(スクリーン)

8 実践を終えて

成果

- ・歴史の学習のまとめとなる単元だったが、児童が日本の課題の中で、4・5年生で学習した環境や農業、工業、水産業などについても振り返り、日本の未来について考えることができた。
- ・家庭で日本の課題について身近な大人にインタビューをしたり、授業で話し合ったりすることを通して、自分たちが知らなかった日本、世界の様子や家庭での取組などを知り、「自分も家族と一緒に取り組んでいきたい。」「これから自分たちにできることはないか考えて過ごしたい。」「これからの未来を自分たちでつくっていきたい。」など、未来につながる思いをもたせることができた。
- ・問題を解決するために、日本だけでなく、世界でも協力していることを理解させることができた。

課題

- ・どのような日本にしていきたいかグループで話し合う時間をあと5分延ばしたほうがよいことが分かった。事後授業でグループでまとめる方向性をしっかりと決め、調べたい内容を絞らせると、その後の活動が決まった時間の中でできた。時間配分や調べる内容の精選について児童に見通しをもたせることが課題となった。